在京石鳥谷 町人会だより

（題字　旧石鳥谷町長　髙橋公男氏）

連絡所：在京花巻ふるさと会事務所
〒102-0072 東京都千代田区飯田橋
4-4-8 東京中央ビル 603 号
TEL：03-6256-8082　FAX：03-6256-8032
事務局：高橋弘美
〒270-0127 千葉県流山市富士見台
1-10-40
TEL　0471-54-8597

八日市地区　春日流鹿踊り

【2020年　行事予定　】

5月　2日～4日　ふるさと応援ツアー
8月13日（木）　第32回　夢まつり
11月　1日（日）　2020年　在京石鳥谷町人会総会・親睦交流会

（詳細はHP参照下さい。）

ごあいさつ　在京石鳥谷町人会　会長　高橋弘美

会員の皆様こんにちは。高橋弘美でございます。

皆様におかれましてはお健やかにお過ごしのこととお慶び申し上げます。

令和 2 年の春号となる「町人会だより」をお届けするにあたって、平素より皆様から寄せられたご支援、ご協力に対しまして厚く御礼を申し上げます。

さて今年の冬は暖冬といわれながらも、立春を過ぎてからいよいよ本格的な寒さがやってきたかと思うと、すぐに春めいた気候になるなど、近年地球温暖化の影響が言われ始めてからは気候の予測がつきにくい状況が続いています。会員の皆様は健康管理にいろいろと気を使われていることと思いますが、ここ暫くは暖房も冷房もいらない、過ごしやすい季節が続きますので健康に気を使いながらもご自分の趣味、運動、そしてこだわりにとご活躍頂きたいと思います。

今年の在京石鳥谷町人会のトピックは、会計年度(会計期間)の変更を行うことです。これは直接会員の皆様に影響ありませんが、10 月～翌年 9 月までとしていたものを、4 月～翌年 3 月まで(学校と同じように)と変更することでわかりやすくしようとするものです。その移行措置として令和元年度の会計期間は、令和元年 10 月～令和 2 年 3 月までの半年間に短縮しました。よってこの 4 月から新しく令和 2 年度の在京石鳥谷町人会の活動が開始されることとなります。引き続き会員の皆様のご協力をお願い申し上げます。

ここで皆様に大変悲しく、そして残念なお知らせをしなければなりません。
当会の副会長として、そして「創立 30 周年記念誌」並びに「在京石鳥谷町人会だより」の編集長として大いに活躍下さった 川村政義 氏 が先の 1 月に病気のためご逝去されました。がんでした。

氏は、8 年ほど前から当会の幹事として積極的に活躍されはじめました。一昨年の創立 30 周年記念誌の作成にあたっては、ノウハウの無い我々に対していろいろご指導いただきながら最終的にほぼ一人で企画・編集され、大変立派な記念誌を作って下さいました。そのあと町人会便りや総会資料の作成も引き受けて下さり、全編カラー化、インターネット印刷活用により、より安く、にも取り組み素晴らしい実績を残して下さいました。

ご家族のお話によりますと病魔との戦いは約 6 年に及んだとのこと。昨年の石鳥谷町人会総会・親睦交流会には体調すぐれない中、ご自分の役割を果たすとの強い責任感で最後まで会の運営に携わって下さいました。昨年の花巻ふるさと会で開催した「花巻まつりツアー」にもご参加下さり、その時の感想を病床からご寄稿頂いております(本誌 P12 に掲載)。 鳥谷ケ崎神社に奉納されている宮沢賢治の碑に刻まれた絶句に接し、自己犠牲の発露の所以が奈辺にあったのか考えさせられたとしるされています。在京石鳥谷町人会へのこれまでの献身的な活動を顧みますと、氏の人生は宮沢賢治先生が実践された社会貢献活動を範として、他人を思いやる心の観念を常に宿され、やりたいことは人のためになることだ、の理想を最後まで貫き通されたことにあるのではないかと思います。崇高な志の持ち主であったことを今にして思い起こされます。氏のこれまでのご活躍に心から感謝申し上げるとともに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

岩手県人連合会「新春の懇親会」　在京石鳥谷町人会　会計　副会長　山口　建

節分の前日二月二日（日）、池之端の東天紅で新春の懇親会が開催されました。「東天紅は知っているけれどどこにあるんだっけ」とネットで調べると思い出しました。不忍池の向こう側です。松戸の家から千代田線一本で湯島へ、意外と近く予定時刻に到着しました。会場は「鳳凰の間」、県人会にふさわしい豪華で大きな会場は和やかな雰囲気に包まれていました。オープニングセレモニーは「三本柳さんさ踊り」優美で華やかな踊り、笛、太鼓にすっかり魅了されてしまいました。時間を感じさせない見事な演舞でした。神奈川県に拠点をおいて活躍されているグループとのことです。

私たち花巻人会のテーブルにはふる里「南部関」の四合瓶が輝いていました。ビールで乾杯のあとはひたすら好きな日本酒をいただきました。お酒のコーナーは岩手県産の日本酒がぎっしり。「利き酒会」か「賀酒交歓会」のようで楽しく酔いしれていたところ、途中で紹興酒もふるまわれ、一瞬なぜと思いましたがここは「東天紅」失礼しました。料理、紹興酒も絶品で盛り付けも美しかったですが、郷土の日本酒とおいしい料理は相性いいようですね。岩手出身の美人歌手の唄、役員の方々の挨拶を遠くに聞きながらひたすらお酒を飲んでしまいました。帰りは不忍池を久しぶりに散策しました。家族連れやカップルが鯉をながめたり屋台で買い食いをしたりしてくつろいでいました。変わらない景色そしておいしいお酒に心が癒された一日でした。

令和元年度在京石鳥谷町人会総会・親睦交流会　在京石鳥谷町人会　広報　幹事　草間マサ子

昨年11月に第31回在京町人会が上野の森精養軒で開催されました。前回を上回る 181 名の参加がありまして大変盛り上がりました。当日、役員の方々も会場準備の為早く来て頂きご尽力頂きました。
会長の挨拶の後に各々役割分担し「町人会開催」の準備をしました。
今回は「八日市つるし雛同好会」の方々が協力して頂き入口やテーブルに花を添えて頂き一段と「はなやか」が増しました。総会が始まり「つるし雛同好会」代表のご挨拶があり八日市弁でのお言葉に「ホット」故郷の事を思い浮びました。
八日市には大きな立派な「つるし雛」もあるとの事、ぜひ皆様も見に行ってはいかがでしょう。 お料理は従来のバイキング方式ではなく、事前に皆様がテーブルで会話できるようにしました。 来賓の祝辞に、花巻市石鳥谷総合支所長と花巻市議会議長のお話を賜りました。アトラクションとして。恒例の「フラダンスチーム」も 1 市 3 町の合併以来13年も続いて頑張っております。南米音楽の演奏、「ロス　ボラーチョス」とても心に響きました。今回の郷土芸能は八日市春日流鹿踊り 2 曲を披露して頂き、絶やさず次の代にも残して欲しいと思いました。 終演、この会の一番盛り上がりの抽選会（空くじ無し）で当たった賞品は会長より手渡し。 副会長の閉会挨拶で無事終了致しました。 毎回思うのですが石鳥谷町人会の暖かさにほっこりした気持になりワンチームだと思います。
皆様お疲れさまでした。ありがとう御座いました。 また、おでってこね！

石鳥谷まつり第 40 回記念事　「ご祈祷、走り参り　我こそは、～令和元年～　最初の福男」

主催：石鳥谷まつり実行委員会／　いしどりや熊野神社

【情報提供：花巻市石鳥谷総合支所　地域振興課】

令和元年　9 月　10 日に石鳥谷町好地地区で継承されている伝統行事「石鳥谷まつり」が 40 回目の節目の年を迎えるにあたり、花巻市立石鳥谷中学校　2017年度卒業生が『未来の石鳥谷』の授業で発案した『福男選び』を記念イベントとして、石鳥谷まつり最終日の9月10日に開催する事となった。

参加資格は県内在住の中学生以上で、当日は 32 名の参加がありました。参加者はスタート前にいしどりや熊野神社でご祈祷を受け。石鳥谷まつりパレード会場の国道 4 号線石鳥谷駅入口から岩舘家具店までの直線400mのコースを壱番福を目指して晴天の秋空の下を走り抜けた。

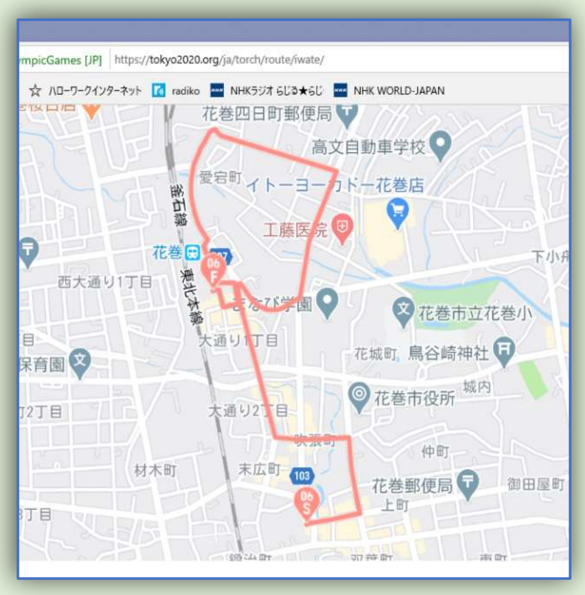
令和元年　壱番福は鎌田有仁氏、弐番福　宮崎竜一氏、参番福　菊地悠生氏となり賞状と賞品の「石鳥谷産ひとめぼれ」が贈られました。

スタート地点：石鳥谷駅入口

ゴール地点：岩舘家具店前

表彰式

聖火リレー　花巻を走る！　【2020　TOKYOオリンピック組織委員開会HPから抜粋】



2020東京オリンピックの聖火リレーが花巻市で 6 月 19 日（金）に行われます。残念ながら聖火リレーは石鳥谷町を通りませんが盛大な応援よろしくお願いします。

■聖火リレー　　令和　2年　6月　19日　（金）

■出発場所：　14 時 35 分　花巻中央広場　→花巻市内

■到着場所：　15 時 25 分　なはんプラザ

在京石鳥谷町人会に参加して　　八日市つるし雛同好会　代表　髙橋多美

　五年ぶりの在京町人会に、つるし雛同好会も本当に楽しみに東京へ向かいました。ふるさとを離れ、山を川を月を五星を見ては父母を思い、都会の中で何十年、知らぬ地で沢山の苦労を重ねながら今の生活を築き上げたのでしょうね。一年に一度の再会にふるさとを思い、あの頃に戻って絆を確かめるあの場所で、お互い出逢ってるあの笑顔、ハイタッチをしている姿を見て、あらためて私たちの住んでいる所石鳥谷町が一番いい所なんだと考え直すいいチャンスにもなりました。いつものとおりこれが当たり前、この当たり前が本当の幸せということなんですね。

　この記事が皆様に届く頃には、令和二年のつるし雛まつりも終わっていることでしょうが、こんな時も一年に一度逢えるお客さんがたくさんおり、出逢いの場となっております。チャンスを作って一度、“百聞は一見に如かず”です。

　さて、在京町人会帰りの際は沢山のお土産、お礼まで頂戴し恐縮しております。ありがとうございました。

在京石鳥谷町人会に参加して　　春日流八日市鹿踊保存会　石森　繁

　今回、在京石鳥谷町人会に初めて参加しました。上野公園袴腰広場での演舞は、自分が思っていたよりも大きな反響でした。

　普段は地元での活動が殆どで、知らない大勢の方々の前での演舞は、大変な緊張の中でのスタートでした。太鼓の音で入場し、徐々に緊張がほぐれていき、会場のボルテージが上がっていくのを感じました。演舞が終わり、集まった皆さんから多くの拍手をいただき、写真撮影にもひっぱりだこでした。再び交流会での演舞でも在京の石鳥谷町出身の方々から熱烈な歓迎を受け、郷土愛を深く感じた時でした。また郷土の方達との写真撮影会も盛況で、とても嬉しく思いました。私達、八日市鹿踊保存会は、全員会社勤めの為、練習時間が少ない中での活動です。翌日全員が出勤の為、束の間の東京での時間を過ごし、郷土愛に浸りながら帰途につきました。

在京石鳥谷町人会･親睦交流会･抽選でお米が当たった！　　ロス　ボラーチョス　小黒　賢治

荒木氏　　小黒氏

ロス　ボラーチョスでチャランゴ(アルマジロの甲羅の小型弦楽器)を弾いている小黒(オグロ)と申します。11 月 4 日の総会にフォルクローレ演奏でお呼ばれして、大きな声援をいただき、10 年ほど前の石鳥谷町花火大会の、河原のステージで演奏したことを思い出しました！あの時は本当にお世話になりました。今回も、抽選大会に参加させていただき、なんとお米 5kg が当たり、ビックリして飛び上がってしまいました。町人会総会に参加させていただき、皆様の暖かい思いやりと、固い絆に触れ、「故郷とは良いものだなあ！日本はやはり、良い国だなあ！」と強く思うことが出来ましたこと、皆様に感謝致したいと思います。

在京石鳥谷町人会の益々のご発展をお祈り申し上げます。

フラダンスチームの衣装は手作りですよ！　　在京石鳥谷町人会　総務　副会長　吉田　久美子

石鳥谷町が花巻市に合併した年からフラダンスを始めて早、14 年目になります。私たちは、石鳥谷町人会総会･親睦交流会の半年前から活動が始まります。荒川区の日暮里ひろば館を拠点にし、そこの和室で会議や練習をしています。最初に曲目を決めます。先ず、それぞれフラダンス教室で習った踊りをプレゼンし、時間も考慮し 3 曲選びます。次に衣装です。今までは T シャツにパウスカートでした。 なんたってボランティア精神での活動ですから高額なドレスは無理と諦めている訳です。パウスカートでも色々と工夫してその都度、毎年新しくし、新鮮に見えるよう工夫してやってきました。さて、石鳥谷町人会も 30 周年となりました。花巻市からのご来賓の皆様、会員の皆様と多数ご出席が予想され、私たちの意気込みも違ってきました。30周年は「ドレスを作ろう」と全員意見が一致！日暮里を拠点にしていることはとても好都合で、生地の専門店街が近くにあります。赤い生地を購入しデザインはそれぞれが好きなように作る事に決めました。型紙を貸したり借りたり、エリや袖などの始末等、簡単に作れる方法をアドバイスしたりし、市販のドレスの半額以下でシンプルなデザインながら赤いドレスは完成しました。全員自分で縫いました。やはりお揃いのフラドレスは素敵です。そして令和元年第31回町人会に向けて、今度は水色の生地を選びました。少しデザインを変えて余裕で全員ドレス作りが出来るようになりました。首にはレイをかけて踊りますが、日暮里にはアクセサリー材料専門店もあり、キラキラ光るクリスタルのようなレイも各自、手作りしました。髪飾りもメンバーの一人が作って、ドレスをはじめ、とにかく全て手作りです。和やかさも一層増すような、華やかなドレスを着てフラダンスが踊れる事に感謝しつつ町人会の盛り上げの一助になりますように頑張りますので宜しくお願い致します。

中野で節分会の金津流鹿踊り奉納　　在京石鳥谷町人会　企画　副会長　川村　三郎

令和2年　2月　3日(月)　13:00より、中野区中野駅前の中野サンプラザ前広場で毎年恒例の、新井薬師梅照院の節分会の奉納演舞として、在京東和町友会主催の金津流鹿踊りが演舞されました。会場には在京東和町友会名誉会長の佐々木幸三氏、会長蟹澤政志氏や在京花巻人会会長瀬川紘一氏、理事松村扶恵子氏など多くのふるさと会の方々が駆けつけていましたし、中野に来ていた一般の人達も鹿踊り特有の太鼓の音に引き寄せられて続々と集まり、演舞会場を半円状に囲み、熱心に見入っていました。故郷の景色が演舞している人達の周りに、霞んで見えるような気がしました、そして体に沁みる太鼓の音やササラの擦れ合う音が故郷の山河を思い出させるひと時でした。

平塚市民プラザにおいての花巻物産展　　在京石鳥谷町人会　企画　副会長　川村　三郎

令和2年2月14日(金)　11:30平塚駅に着いて市民プラザを探しました、2月13日(木)より16日(日)迄恒例の「いわて花巻物産と観光フェアー」が催されるというので、応援と激励に駆け付けたのですが、私は平塚での物産展の応援は初めてです。市民プラザはイメージとして、平屋建ての公民館などを描いていたのですが、なんと駅前メイン通りに面した大きな交差点のビルの 1 階でした。丁度、新型コロナウィルスが騒がれていた最中なので、閑散としているかと思っていた所、大勢の人で賑わっていました。先ずは、花巻市観光協会の担当者に挨拶し、今回新任の局長が来ていて、紹介されましたので、労をねぎらい激励しました。石鳥谷からは、常連の㈱協同農産さんの社長夫人がいらしてお客さん対応に大わらわ又、喜平堂さんは社長ご夫妻で常連のお客さん相手に頑張っていました。 お客さんとの会話を聞いていると年配の方は、多くの方が常連さんの様でしたし、若いお母さんなどは福引なども有ったので楽しんでお買い物をしていました。 花巻物産展は、平塚市民に受け入れられてると心強く感じました。

在京石鳥谷町人会 30 周年記念植樹「枝垂れ梅」愛称募集　在京石鳥谷町人会　広報　上川　信行

「枝垂れ梅」は石鳥谷総合支所北側植栽エリアに植えられています。2年目になり、幹もしっかりしてきました。この梅を呼ぶ時に名前が無いと不便との声があり、ここに愛称を募集いたします。皆さんの愛情のこもった愛称で「枝垂れ梅」の成長を見守りたいと思います。よろしくお願いします。募集期間は令和 2 年　4 月 1 日～5 月 31 日　愛称は下記メールアドレス又は町人会各役員まで一人で何通でも、よろしくお願いいたします。

メールアドレス：hola_borrachos@yahoo.co.jp　カミカワまで。

（記念植樹は 2018 年 6 月 2 日に行われ「岩手日報」にも掲載されました。）

【創立以来 30 年間に渡り当町人会の事務局を務めて頂いた前副会長(現参与)の大竹雅夫氏から
退任のご挨拶を兼ねて 30 年間の思い出話を綴ってもらいました。】

在京石鳥谷町人会 30 年の思い出　在京石鳥谷町人会　参与　大竹雅夫

箱崎安弘さんの電話から始まった、私の石鳥谷町人会との係わりは「きみのところの親戚の大竹義文町長が在京の石鳥谷出身者の会を立ち上げる事になり、その会議があるので霞ヶ関ビルの33階に来い」と言われその日に霞が関ビルに出かけて行ったら、お前は設立人のメンバーではないので、会議が終わるまで外で待っていろと告げられ、会議終了後の懇親会からの参加となりました。 第 1 回総会は随分たくさんの人が集まったし私も幹事として役員の仲間入りはしましたが･･･、第 2 回は天皇崩御で賑やかなことは自粛でしたが、懇親会の開会の辞をさせられたこと、第 3 回は上野精養軒で司会を仰せつかったことが思い出されます。

ふるさと交流事業で何回も役場の方々にお世話になりました、五大堂の伊藤果樹園でリンゴ捥ぎや、農協の工場で豆腐を造たり、選果場で機械が大きさの違う物を瞬時に選別して同じ重さの袋詰めが出来るのを見学したり、高橋淑郎さん宅の立派な別棟座敷に宿泊し、古代米の稲刈り体験をさせてもらったり、酒祭りでビールばかり飲んで罰当たりの事をしたり、道の駅石鳥谷の農業伝承館で草鞋を作ったりと楽しかった事ばかり思い出します。藤原龍考副会長の主催で相模原地区在住の八日市・大瀬川出身者で創られた相模原支部は河原でバーベキューをやったり、海老名市の私の妹の同級生の小原彦人君が杜氏を務める泉橋酒造へその酒を味わいに行ったり。相模原市役所近辺で毎年盛大に催される桜まつりの会場に、菅原光雄副会長がスポンサー(？)になり立派な「石鳥谷町人会相模原支部」の名前入りの大きなテントを張り石鳥谷から業者を呼んで石鳥谷の物産を販売し、最終日には近くのスナックを借り切って盛大に打ち上げ式をやったもんです。 河島稔副会長の立ち上げた城東支部の行事・下町散策はやがて日本橋観桜クルーズとなり今でも在京花巻ふるさと会の年中行事の一つに発展しています。

後藤会長から大迫人会の会長と紫波町ふるさと会の会長 3 人でよく飲んでいるのだが、この度 3 人だけでなく役員も入れて皆で飲もうかということになったので、お前が幹事をやれとの仰つかり、参加者の募集に 20 名ぐらいの方々が参加してくれる事で、場所は井の頭公園の入り口にある鳥良というヤキトリ割烹に 20 名入る部屋を予約しましたが、当日飛び入り参加の方が多く出て、熊谷さんと私は座る席がなく立ったままお酌をして回ったのも思い出の一つです。またこの会が好評で毎年幹事持ち回りで開催することになり、花巻人会、ふるさと矢巾会、東和町友会、北上ふるさと会、金ケ崎人会と参加ふるさと会が増え、今では岩手県中央部の 8 ふるさと会が毎年幹事持ち回りで開催されこれまで25回催され、今年は石鳥谷町人会が幹事で開催する予定です。

阿佐ヶ谷のすずらん通り商店街の石鳥谷物産会は商店街の街路を借りて石鳥谷の業者が数ケ所に分散して石鳥谷の物産を販売し我々町人会から役員数名が毎年お手伝いに出ました。
石鳥谷から高橋町長もお出でになり、商店街の店主達と焼き鳥屋の座敷を借り切って盛大に懇親会をやったのも数回ありました。お昼の時間に「ひっつみ汁」のサービスに続いて「わんこそば」の提供が始まり、初めは蕎麦ゆでは石鳥谷から来た産直の人がやり、お椀にそばを入れるのは商店街の奥様方が担当してくれていましたが、蕎麦ゆでを町人会でやってくれということになり、河嶋副会長の出番となり、そのうち商店街の奥様方も忙しくて手伝えなえなくなり、全て町人会の仕事になってしまいました。

また花巻市に合併してからは予算が削られて産直の人の旅費が出ないので野菜とリンゴの産直出品の品を町人会で責任をもって売ってくれと頼まれ、品物に値段が付いていましたが、現金を扱うので苦労しましたし、送られて来た野菜やリンゴが初日に売り切れてしまい追加の送付も無く後の 2 日目は楽しみにして来てくれたお客様にお詫びを申し上げる 1 日を過ごした時もありました。

在京花巻ふるさと会傘下の花巻人会・大迫人会・東和町友会・石鳥谷町人会が毎年持ち回り担当で企画運営を行う「ふるさと復興支援ツアー」も私が総務担当副会長として企画施行を 2 回行いました。1 回目は私の住んでいる小平市を「銀河鉄道」というバスが走っているので調べたらこの会社は観光バスもあると言うことが分かり、「銀河鉄道でふるさとの 2 大詩人を尋ねるツアー」と銘打って花巻の宮沢賢治ゆかりの地を見学しました。

花巻北高校同期の高橋輝夫君に案内人を頼み最初は宮沢賢治の産湯を使った井戸がある宮沢本家の庭にある井戸を見学、ご当主の宮沢啓祐氏自らが井戸や庭のさざれ石の説明をしてくれました。

その後賢治の碑やイギリス海岸を訪れ最後に賢治の碑がある敷地から花巻農学校の敷地に移築した有名な「下の畑におります」と書かれた黒板がある建物を見学しました、4 時半到着予定が遅れてしまい 5 時を過ぎていましたが、幸いにも先生が待っていてくれて、建物の鍵を開けて下さり中まで見ることができました。その晩は花巻温泉泊りで、懇親会には大石市長・高橋副市長、元東京事務所長の永田課長がご参加くださり、又石鳥谷女子綱引きチームのメンバーが参加して歌に踊りにと大いに座を盛り上げて下さいました。

2 日目は盛岡城址公園から渋民の石川啄木記念館見学、途中下見は平日に行いましたが当日は日曜日で大渋滞に見舞われ 30 分位の所が倍以上の時間を要し、啄木記念館はざっと見るだけで、やっと昼ご飯の予定地の小岩井農場に間に合いました。昼食後は盛岡手づくり村にある石鳥谷の藍染業者「染屋滝浦」の工場で藍染の体験をして世界に一つしか無いハンカチの作成をし皆に喜ばれました。2 日目の晩は渡温泉泊、懇親会はカラオケ大会で盛り上がり、宴会後は希望者を募りホテルのバスで花巻駅の近くにある夜光塗料で書いた「銀河鉄道」の絵を観て感激して帰りました。3 日目は江差の「えさし藤原の郷」を観てバスは夕方東京駅近辺に到着し無事解散となりました。

4 年後 2 回目の当番担当が回ってきました、今回のテーマを何にしようかと相談の結果「石鳥谷のお祭りを観るツアー」と決まり、川村三郎副会長が現地石鳥谷祭りの関係者と綿密な打ち合わせをして貰い、お祭り参観日は 3 日間の内真ん中の日と決まりました。我々がお祭りを観る場所の選定では、佐藤忠男副会長のお友達のご自宅で道路に面している所に空き地がありこれを使わせて貰うことになり、幸いにお隣に宝峰の敷地跡がありこれにバスを駐めさせて貰えるとのこと、石鳥谷祭りは雨祭りで有名なので、私は石鳥谷祭りを観た事が無かったので、前年に実地踏査の折を兼ねてお祭りを観に行きましたが、矢張り雨のお祭りでした。当日は参加者約 50 名が座れる椅子と大きなテントの用意も役場からお借りできる事になりまして準備万端整いました。

さてツアー本番第 1 日目は、朝東京駅近くの元都庁第 2 庁舎跡の駐車場に集合し、バスは常磐自動車道で福島県の津波で壊れた原子力発電所の近くの被爆地帯で駐停車禁止地帯を通過し、宮城県の松島でチャーターした観光船で松島湾を一周観光し次に北上川が太平洋に出る石巻市の高台にある公園から生々しい津波の被害に会った市街地を見下ろし、その晩は南三陸町の南三陸ホテル観洋に泊り、太平洋に面した大きなお風呂で疲れを癒し翌朝早起床で太平洋から登るギンギンに輝く朝日を拝んで貰いました。ホテルを出て一関の厳美渓で川の向うからロープを伝って運ばれて来る「郭公団子」をご賞味願い、昼食は花巻の金婚亭で「わんこそば」で楽しんで頂きました、昼食後は新渡戸記念館を見学して、石鳥谷祭りの会場に向かいました。会場は川村副会長のご尽力により、テントが張られ椅子も用意されておりました。何より嬉しかったのは、ツアー参加者の行いの良さのお陰で有名な雨祭りの為に用意したテントが照り付ける太陽の日陰の為のテントになったことです。

上田東一市長もお出でになり歓迎のご挨拶を頂きました、3町の山車に音頭上げを頂き石鳥谷祭りを堪能いたしました、ただ残念なことは、花巻まつりとかち合って屋台のお店が殆ど花巻に行ってしまい石鳥谷の大通りの寂しかった事です。二日目の晩は前回にも泊まった渡り温泉でした。3 日目は道の駅石鳥谷で岩手県でも何軒も無い「石鳥谷アイスアリーナ」を無理を言って開けてもらい見学しました。参加者を 3 班に分けて、南部杜氏伝承館・石鳥谷歴史民俗資料館、農業伝承館での機織り体験とそれぞれ回って貰いました。昼食はりんどう亭でひっつみ定食を食べてもらいました。昼食後バスは東京へ向かって帰路につきましたが、東北道が大混雑で 18 時 30 分頃到着が大幅に遅延し 20 時近くになってしまい参加者皆様に申し訳ございませんでした。このふるさと復興支援ツアーは 2 回とも私がツアーコンダクターと行程企画を担当し、それぞれ車で 2 回づつ地図上で大体の行程と所要時間を測定し実地踏査を行い、分刻みの行程表を完成させました。またホテルの宿泊代金の交渉・バス料金の交渉・昼食代他の諸費用の算定等の計算で一人値の単価を計算し、個人の参加費の決定をし、赤字にならないようにしました。

石鳥谷町が花巻市と合併することになりましたが事務局は町役場で担って貰っていたので、合併後も事務局は役場でやってくれるのか心配になり問い合わせたら大丈夫今まで通りにやりますよとの回答を貰って安心していました。ところがいざ花巻市との合併が整うと石鳥谷総合支所の担当者から事務局は担える事が出来なくなったのでそちらでやってほしいと連絡があり、千名ぐらいの会員名簿のデータを貰いました。その会員名簿が特殊なソフトで作成されており、ソフトの値段が５～６万円と高価なもので貧乏な町人会にも私にも買えず困っておりました、高校時代の友人達と飲んでいる時その愚痴を言ったら友人一人がそのソフトなら僕があげるよと、数日後送ってくれました。お陰で総会案内状発送の宛名印刷が間に合いました。こうして在京石鳥谷町人会の総会の自主運営が始まった訳です。

今まで役場主体の総会運営でしたので、出欠ハガキの発送回収・出欠届集計表名簿・座組表の作成・招待状の発送・協賛企業様への寄贈品のお願い書作成発送・総会資料の印刷丁合等慣れないことばかりで苦労しましたが、今度は高橋会長への事務局の移転作業に落ちの無いようにしなければなりませんが・・。

熊谷福二会長が毎年協賛企業様への表敬訪問を始めたので、私は事務局長として年2回総合支所と好地・大瀬川・八日市・八幡・八重畑・新堀の各コミュニティと花巻市本庁舎を表敬訪問して来ました、特に持ち回りで郷土芸能を出して下さるコミュニティでは会長さんや演舞団の責任者をいれて時間をかけて打ち合わせをするよう心掛けて来ました。

私が60歳で会社定年の時に後藤会長から自分はそろそろ会長を退任したいので後を引き受けてくれないかとの打診がありました。私は定年後はバァンクーバーで生活してみたいと思っておりましたので、日本にいないからとお断りしましたが、その年に胃がんに見舞われ海外生活を諦めました。幸い後藤会長の後を熊谷福二さんが引き受けてくれることになり、私は総務担当副会長として熊谷会長を支える立場で会の運営に携わりました。

10 年経ち熊谷会長から辞めたいから後を私にと言われましたが、私も 70 歳を過ぎていましたので、この際会長を若返らそうと考え、髙橋弘美君を口説き落とし 50代の会長が実現しました。ところが、彼は現役のため大阪転勤を命じられ、２～３年で帰って来れると思ったのに6年も大阪赴任が続き、その間私が総務担当副会長兼任事務局長として会の運営の先頭に立ってやってきました。会長も定年を迎え大阪からあたかも創立 30 周年に間に合うように帰還し、立派に創立 30 周年の行事をやり遂げてくれました。

創立 30 周年になにをやるかと協議した結果、記念誌の発行と私の提案した旧石鳥谷町の「花」の梅の木の植樹、特に枝垂れ梅ノ木に賛同得ました。植樹に関しては会長が支所の植栽を行っている造園業者と交渉し、記念樹標記碑は佐藤副会長が花巻の石屋に発注してもらうことになり、植樹当日は発起人代表の箱崎安弘さんにもご出席を願い、りんどう亭でお昼ご飯を食べながら・箱崎氏さんから石鳥谷町人会発足の経緯を聞く会を設けました。

記念誌については、川村政義さんが彼の勤める学校の記念誌編集携わっていたというので彼を編集長に任命し、彼のお陰で非常に立派な30周年記念誌が完成しました。彼は癌に侵され強い抗癌剤を投与されて参っていることは聞いていました去年の１１月４日の町人会総会時には写真係を買って出て写真を撮っていましたが、顔色が悪く辛そうでした、総会終了後直ぐに入院して今年の１月初めに逝去されたとのこと、私も他人ごとではなく、肺炎に侵され入院中の出来事でした、心からご冥福をお祈りいたします。

私は、80 歳を超えましたので創立 30 周年を機に総務担当副会長兼事務局長を退任することを申し出て了承されました。これからの在京石鳥谷町人会を思うに、長く事務局をやっていると、いつも参加してくれている方から、高齢になって動けなくなり今年は欠席ですの葉書や本人が亡くなりましたとの家族からの葉書が毎年何枚か受け取ります。若い時に上京して忙しい毎日を過ごしある年齢を過ぎると故郷の懐かしい匂いを思い出す、こんな時期を迎えた石鳥谷出身の方々に、楽しい素晴らしい在京石鳥谷町人会があり、年 1 回上野の上野精養軒での懇親会に来て貰いたい、そして楽しんで帰って貰いたいという一念で頑張ってきました。高齢化による会員減少はどこのふるさと会も共通の悩みだと思います。でも在京石鳥谷町人会存続の為に皆さん良い知恵を下さい。

ありがとう川村政義さん　　在京石鳥谷町人会　監事　柳原　政義

川村政義さん、もう賢治先生に会いましたか。 どんな話をしましたか。恐らくあなたの賢治のお気に入りの詩の解釈を語って先生に作った時の心境を求めたのではないでしょうか。

一昨年の町人会30周年記念植樹の日、賢治先生が肥料設計をした事務所跡の記念館であなたといろいろ酒を呑みながら語り合いました事がまるで昨日のように思い出されます。あなたに負けない位賢治大好き人間の私の賢治観に比べれば、あなたの理解の深さに大いに刺激を受けたものです。

お気に入りの作品の話では、私は賢治の真の姿は「虔十公園林」ではないか、若いアメリカ帰りの博士とは新渡戸稲造ではないかには同意をしてくれましたが、「十六日」には賢治の切ない女性への押さえられないエネルギーを文章に書くことで消化との私の独断的な解釈に異論を唱えてくれました。それから私は、別な解釈に彷徨っています。

また、歴史好きでも気が合い、「今存在を知る為に歴史を学び調べるのだ」ただの教養知識での歴史でない向き合い方に酒が一層意気投合させました。私の祖母が下二枚橋の某川村家の出で、岩手の川村一族に大いに興味を持っており、あなたの調査ではどうなのか聞きたいと思い、下二枚橋川村一族の歴史を書いた「むかしのゆもと」をコピーして昨年あなたに渡し、祖母の実家の歴史や岩手の川村一族の話を聞きたいと心待ちにしていたのですが、なんと、無情にも約束が果たせずあなたは、賢治の作品の特徴である前章と終章書き込む風にように去ってしまい、私の心にぽっかりと穴が開いてしまいました。私の書き上げた愚作をどんどん町人会便りに載せるから送ってくれとの約束も空中分解してしまいました。残念無念です。 同じ政義という名前が気の合う美味い酒を醸し出してくれましたが、苦い酒もありました。お互い、長男という跡取りの責務を負わず故郷の石鳥谷を離れたことをどこかに引っ掛かりをもって生きていることでありました。もう忘れよう、時は戻りません、後戻りできません。どうか石鳥谷町人会が末永く続くようお守りください。
心から大声で・・・ありがとう　川村政義さん。

【 故川村政義氏 遺稿原文 】

在京花巻人会広報誌への寄稿として執筆されたものですが、ご家族及び花巻人会の了承を得て本誌にも掲載いたします。長い間お世話になりありがとうございました。
謹んでご冥福をお祈りいたします。

「花巻まつり」と賢治の絶筆短歌]

在京石鳥谷町人会　副会長　川村政義

「花巻まつり」といえば4百年以上の歴史を有しているわけですが、「開催3日間のうち一度は雨がふる」というジンクスがあり、厳密な統計上、実際のところわかりませんが概ねあたっているようです。ツアー初日の昼食歓迎会の席上、上田市長のご挨拶のなかでも、昨年は3日間とも雨に見舞われた旨お話がありました。

その意味で今年は天候に恵まれ本当に幸運であったといえるでしょう。

今から 86 年以上前の昭和 8 年 9 月 17 日から 3 日間の「花巻まつり」も珍しく天気に恵まれたようです。この年は 3 月に津波があったものの稗貫地方は大豊作でした。町中の山車が練り歩き大変な賑わいだったことでしょう。

当時病床にあった宮澤賢治は、門の前まで出て、神輿の渡御に拝礼し鹿踊などを見て楽しんだようです。彼は残念ながら2日後に逝ってしまいますが、この時絶筆となる短歌 2 首を詠んでおり、そのうち 1 首が歌碑として鳥谷ヶ崎神社境内に建てられています。

方十里　稗貫のみかも　稲熟れて
み祭り三日　そらはれわたる

彼は、稲や雑穀の豊作で人々の潤う姿に大いに喜んだことでしょう。想像でしかありませんが、最期の場面では、稗貫十里四方三町十一か村の地質調査や、農民の肥料相談を通じて農業指導してきた日々が走馬灯のように頭のなかをよぎったことでしょう。半生を「農」への想いに捧げた彼は、多彩な顔を持つ人ですが、農民の生活向上を目指して花巻農学校の教職をなげうってまで農業指導の実践を通じた社会貢献活動を最期まで行ってきました。最も尊敬してやまないところです。

今回の旅でこの歌碑に接し、自分を差し置いてでも他人を思いやる心、すなわち自己犠牲の精神の発露の所以が奈辺にあったのか、あらためて考える機会を与えていただいたと喜んでいます。ありがとうございました。

編集後記

故川村政義編集長の後を引き継いだ広報　上川です。私は5年間武蔵大学に勤務した経験があり、その時川村さんから「石鳥谷出身だって」と声をかけられました。その時「在京石鳥谷町人会」に参加しませんかとお誘いしました。それから転職した私ですが在京石鳥谷町人会でお会いし「元気か？」といつも声を掛けて頂きました。病気の件は聞いていましたが、お会いした時はいつもニコニコ元気でお酒も飲んでいました。最後にお会いしたのは令和元年の町人会総会でした。私が「総会のスナップ何枚かおねがいします。」「ああ、撮っとくよ」といつもの調子でした。
しばらく連絡がなく心配していましたが、会長から訃報が届き、別れとはいつも突然やってくるものだなあと悔やむ気持ちで一杯です。個人的にも大変お世話になり、感謝の気持ちを伝えることができず残念です。
本当にありがとうございました。ご冥福をお祈りいたします。

（記）　在京石鳥谷町人会　広報　上川　信行